

禁煙科学 最近のエビデンス 2013/02

さいたま市立病院 館野博喜
Email:Hrk06tateno@aol.com

本シリーズでは、最近の禁煙科学に関する医学情報の要約を掲載しています。医学論文や学会発表等から有用と思われるものを、あくまで私的ではありますが選別し、医療専門職以外の方々にも読みやすい形で提供することを目的としています。より詳細な内容につきましては、併記の原著等をご参照ください。

 KKE28

「日本人の喫煙女性は肌の色がくすんでいる」

Tamai Y等、Tob Control. 2013 Jan 26. (Epub ahead) PMID: 23355625

- 喫煙は皮膚の老化やシワを増やすことが報告されている。
- また、直接および間接喫煙が歯肉の色素沈着を増やすことも報告されている。
- 今回、喫煙が日本人女性の皮膚の色に与える影響について横断的調査を行った。
- 2003年から2006年に岐阜県の総合病院で検診を受けた延べ2073人の女性のうち、同意が得られ、癌や膠原病を持たず、避妊薬やホルモン剤を使用していない。
- 20歳から74歳の女性939人を調査した。
- 皮膚の色はメグザメーターで測定し、メラニン値で褐色調を、紅斑値で赤色調を計測した。
- 陽に当たらない部位として前腕と上腕の内側を、陽に当たる部位として前額部を測定した。
- メラニン値はすべての測定部位で、現喫煙者がもっとも高かった。
- 1日の喫煙本数、喫煙年数、喫煙総本数のすべてがメラニン値と正相関した。
- 腕の内側の紅斑値も同様に喫煙・喫煙量と相関した。
- メラニン値・紅斑値と喫煙量との相関は、40歳以上でも以下でも変わらなかった。
- 日焼け止めの使用、ビタミンCやD、野菜や脂肪の摂取量で補正しても、喫煙と皮膚色の相関は不変であった。
- 現在および過去の喫煙者は、非喫煙者より皮膚の色が暗く、年齢、体格（BMI）、累積日照時間、検査室温・湿度で補正後のオッズ比は、上腕内側で2.23倍、前腕内側で1.54倍、前額で1.65倍であった。
- 日本人女性では、喫煙量が多いほど皮膚の色が暗かった。

<選者コメント>

喫煙者と非喫煙者の皮膚の色を比較した世界初の報告です。有名な高山コホートの岐阜大学から報告されました。皮膚の色は遺伝や年齢、日照によるところも大きいはずですが、それら全てと無関係に、喫煙量が多いほど皮膚の色が暗いことが示されました。ニコチンがメラニンを含む皮膚組織に蓄積することを示唆する報告もあり、肌のくすみの原因の一つではないかと考察されています。

今後は、色に加えて皮膚の健康状態の変化や、禁煙すると皮膚の色が明るく戻ることを示す研究などにも期待が持たれます。

<その他の最近の報告>

KKE28a 「HIV患者では、喫煙はHIV自体よりも寿命短縮効果が強い」

Helleberg M等、Clin Infect Dis. 2012 Dec 18. (Epub ahead) PMID: 23254417

KKE28b 「rs1329650遺伝子変異はADHDおよび喫煙行動と関連する」

Thankur GA等、Arch Dis Child. 2012 Dec;97(12):1027-33. PMID: 23109089

KKE28c 「背側前帯状皮質は喫煙衝動の抑制に重要である」
Zhao LY等、PLoS One. 2012;7(8):e43598. PMID: 22928000

KKE28d 「新規禁煙治療薬ロベリンの脳内作用（ネズミの実験）」
Hillmer AT等、J Neurosci Methods. 2013 Jan 28. (Epub ahead) PMID: 23370310

KKE28e 「タバコ煙の多環芳香族炭化水素が肝CYP3A4を誘導する可能性がある（細胞実験）」
Kumagai T等、Drug Metab Pharmacokinet. 2012;27(2):200-6. PMID: 22076448 ; 日本からの報告

KKE28f 「A/Jマウス喫煙発癌モデルの妥当性と有用性」
Stinn W等、Toxicology. 2013 Jan 24. (Epub ahead) PMID: 23357402

KKE28g 「ニコチン依存形成には $\alpha 7$ 受容体が必須である（線虫の実験）」
Sellings L等、Eur J Neurosci. 2013 Jan 25. (Epub ahead) PMID: 23351035

KKE28h 「タバコ煙は血管内皮のオステオポンチン発現を誘導し、禁煙で改善する」
Bishop E等、BMC Cardiovasc Disord. 2012 Sep 17;12:75. PMID: 22978720

KKE27i 「PI-TOFMSを用いた副流煙解析」
Streibel T等、Anal Bioanal Chem. 2013 Jan 27. (Epub ahead) PMID: 23354580

 KKE29

「禁煙支援、専門家と非専門家のちがいは？」

McDermott MS等、Nicotine Tob Res. 2012 Dec 13. (Epub ahead) PMID: 23239841

→英国の国営医療制度に基づく禁煙サービスは、世界に先駆けて1999年に開始され、これまでに62万人以上の長期禁煙を支援し、7万人もの命を救ってきた。

→この国営サービス専属の禁煙支援専門家と、民間で禁煙支援を行なっている非専門家では、禁煙支援の方法や効果が異なるかどうかを比較検討した。

→2011年11月30日から12月23日の間にeメールでアンケート調査を行い、計1132名からの回答を解析した。回答者のうち50.6%が専門家であり、41.2%が非専門家であった。

→非専門家の職業は、看護師（30.8%）、介護士（14.8%）、薬剤助手（10.7%）、薬剤師（9.6%）などであった。

（背景因子）	専門家	非専門家	有意差
禁煙支援に携わっている期間（月）	68.1	54.6	＋あり
仕事に占める禁煙支援の割合％	75.9	28.4	＋
過去1年に支援を開始した患者数	163.9	55.2	＋
COで確認した4週間禁煙成功率％	63.5	50.4	＋
（支援方法）	専門家	非専門家	有意差
患者受診による対面支援を行う％	62.5	29.5	＋あり
チャンピックスを最もよく使う％	11.9	19.3	＋
ニコチン製剤を組み合わせる％	26.5	26.2	－なし
特定のニコチン製剤をよく使う％	15.7	32.0	＋
特定の薬剤を勧めるということはない	44.9	21.2	＋
*減煙でなく断煙を勧める％	49.5	34.8	＋
*平均の初回面接時間（分）	34.3	28.8	＋

(行動変容技術の使用)	専門家	非専門家	有意差
* 禁煙補助薬について説明する%	94.7	85.9	+あり
再喫煙防止のための援助を行う%	82.3	66.8	+
禁煙成功に対して報いる%	95.1	90.0	+
動機と自己効力感を高める%	92.6	90.1	－なし
COを測定する%	77.4	80.1	－
離脱症状について説明する%	70.8	71.7	－
(受けた教育)	専門家	非専門家	有意差
* 職場外で受けた支援教育の日数	3.12	2.28	+あり
* 先輩支援者による講習の受講回数	8.53	2.91	+
年1回以上継続教育を受けている%	37.2	21.9	+
* 自分の支援を評価される機会がある	75.6	37.9	+

→*の6項目はいずれも、支援場所などのような専門家に特化した内容ではなく、非専門家でも取り入れられる内容であるが、この6項目は特に禁煙の成功率に直結していた。

→専門家はより広範な教育を受け、エビデンスに基づいた支援を行っており、非専門家より支援の有効性が高いものと考えられた。

<選者コメント>

一見すると、専門家が非専門家より勝る点ばかり示されているようにも見えますが、本論文の主旨は、禁煙支援の非専門家へのエールです。非専門家は専門家に決して劣らない点も多く、今回差の見られた部分に注目すれば、支援にさらに磨きかけられる、ということが強調されています。かけている時間や経験している症例数のハンデを考慮すれば、非専門家の禁煙成功率はまったくもって立派なものと思われます。

禁煙補助薬の習熟、断煙の勧め、成功への賞賛、職場外での継続教育、など、正にアド講習の意義を強調しているかのような報告です。

<その他の最近の報告>

KKE29a 「慢性腎疾患への正しい理解は禁煙につながる」

Tuot DS等、Am J Nephrol. 2013 Jan 31;37(2):135-143. PMID: 23392070

KKE29b 「現代米国における精神疾患患者の喫煙状況」

MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2013 Feb 8;62:81-7. PMID: 23388551

KKE29c 「害虫に強い遺伝子組み換えタバコ葉の開発」

Sohail MN等、Biotechnol Lett. 2012 Aug;34(8):1553-60. PMID: 22488439

KKE29d 「胎内ニコチン曝露による喘息素因は孫の代まで伝わる（ネズミの実験）」

Leslie FM等、BMC Med. 2013 Feb 4;11(1):27. PMID: 23379695

KKE29e 「職域における禁煙支援の費用対効果」；日本からの報告

Nakamura K等、PLoS One. 2013;8(1):e55836. PMID: 23383289

KKE29f 「喫煙が心血管に及ぼす影響についての生物学」

Csordas A等、Nat Rev Cardiol. 2013 Feb 5. PMID: 23380975

KKE29g 「喫煙はOGG1遺伝子変異と関連し男性不妊の原因となっている可能性がある」

Ji G等、Toxicol Lett. 2013 Jan 31. (Epub ahead) PMID: 23376476

KKE29h「喫煙する親の3割強は子供の乗った車内でも喫煙している」

Nabi-Burza E等、Pediatrics. 2012 Dec;130(6):e1471-8. PMID: 23147972

KKE29i「間接喫煙は小児の免疫反応を低下させる可能性がある」

Wilson KM等、Cytokine. 2012 Oct;60(1):34-7. PMID: 22805115

KKE29j「未成年での喫煙開始は男性の骨をもろくする」

Rudang R等、J Bone Miner Res. 2012 Oct;27(10):2189-97. PMID: 22653676



KKE30

「ニコチン含有電子タバコの使用状況（4カ国調査）」

Adkison SE等、Am J Prev Med. 2013 Mar;44(3):207-15. PMID: 23415116

→電子的ニコチン・デリバリー・システム（電子タバコと略）は、2003年に中国で市場に出てから、インターネット等を通じて世界中に広がっている。

→電子タバコはニコチン溶液を気化させるもので、紙巻タバコに似た外観に作られている。

→タバコより害が少ないという意見もあるが、長期の安全性は不明である。

→また、喫煙者のニコチン依存を維持させて禁煙を妨げたり、非喫煙者をニコチン依存に導いたりすることも危惧される。

→屋内等における禁煙政策をも揺るがしかねない。

→カナダや豪州ではすでに電子タバコは禁止されたが、米国や英国では現在も合法である。

→電子タバコの利用者は、節煙や禁煙のために使用しているとの報告もある。

→今回初めて米国・英国・カナダ・豪州の4カ国において、電子タバコの利用知識や利用状況を調査した。

→2010年7月から2011年6月にかけて電話・インターネットにて調査した。

→4カ国で計5939人の現喫煙者・喫煙経験者から回答を得た。

→電子タバコを知っていた人は全体の46.6%であり、禁止国では低かった。（米国73.4%、英国54.4%、カナダ39.5%、豪州20.0%）

→若者、高収入や教育レベルの高い人、毎日喫煙する人、メンソール使用者、男性、に知っている人が多かった。

→実際に使用したことがある人は7.6%で、電子タバコを知る人の16.3%であった。

→継続使用している人は2.9%であり、使用経験者のうち38.7%であった。

→禁止国のカナダや豪州でも約1%の人が継続的に使用していた。

→電子タバコを知る人のうち、使用経験があるのはどんな人かを調べたところ、米国と英国ではカナダより2倍の人に使用経験があった。

→また、毎日吸わない人の方が、20本以下のタバコを毎日吸う人よりも、電子タバコの利用経験者が多かった。

→電子タバコは紙巻タバコより害が少ないと答えた人（全体で70.3%）は、そうでない人よりも、実際に使ってみる傾向が4倍高かった。

→電子タバコの利用経験者のうち、継続使用者はどんな人かを調べたところ、英国人、教育レベルの高い人、毎日吸わない人（全体の5.8%のみ）、20本以上の重喫煙者、であった。

→電子タバコを有害と認識している人の割合は、合法国では米国の方が英国より高く、禁止国ではカナダが豪州より高かった。

→電子タバコを使用する理由としては、禁煙するために、害が少ないから、節煙するため、禁煙の場所で吸うため、の順に多かった。

→電子タバコ使用者の喫煙本数の変化を調べてみると、喫煙本数は1日平均20.1本から2年後に平均16.3本に減少していたが、禁煙率は11%で電子タバコ非使用者と差がなかった。

→電子タバコが禁煙に有効かどうかは、さらなる研究が必要である。

<選者コメント>

日本の電子タバコは、薬事法上ニコチンを含まないことになっていますが、海外の電子タバコは、タールを含まずニコチンのみを含むことが売りになっています。タバコよりは害が少ないと考えられ、毎年売上が倍増しているようですが、臨床試験等による安全性の確認はなされておらず、WHOや各学会は禁止の立場です。禁煙ツールとして期待する意見もありますが、今回の調査では喫煙本数は少し減るものの、禁煙率は上がりませんでした。

わずかな節煙効果の一方で、ニコチン依存の維持、若者のニコチン依存への誘導、禁煙政策への侵害など、安全性のみならず問題の多い商品と考えられます。

<その他の最近の報告>

KKE30a 「ネパールにおける未成年喫煙の要因研究」

Pradhan PM等、BMJ Open. 2013 Feb 14;3(2). PMID: 23418297

KKE30b 「 $\alpha 3 \beta 4$ ニコチン受容体は $\alpha 5$ と独立にニコチン依存に関わる（ネズミの実験）」

Jackson KJ等、Neuropharmacology. 2013 Feb 13. (Epub ahead) PMID: 23416040

KKE30c 「タバコ煙中のアルデヒドがヒト肺胞上皮細胞に与える影響」

Cheah NP等、Toxicol In Vitro. 2013 Feb 14. (Epub ahead) PMID: 23416264

KKE30d 「タバコ産業とティー・パーティーの関係」

Fallin A等、Tob Control. 2013 Feb 20. (Epub ahead) PMID: 23396417

KKE30e 「喘息の未成年者の間接喫煙は減ってはいるが依然多い」

Kit BK等、Pediatrics. 2013 Feb 11. (Epub ahead) PMID: 23400612

KKE30f 「救急部での禁煙介入は受け入れられ得る」

Choo EK等、Addict Sci Clin Pract. 2012;7(1):4. PMID: 22966410

KKE30g 「禁煙支援の介入密度に関する費用対効果研究（スウェーデン）」

Nohlert E等、Nicotine Tob Res. 2013 Feb 12. (Epub ahead) PMID: 23404735

KKE30h 「シチジンの禁煙効果に関するレビュー」

Hajek P等、Thorax. 2013 Feb 12. (Epub ahead) PMID: 23404838

KKE30i 「環境タバコ煙は認知症のリスク因子である」

Chen R等、Occup Environ Med. 2013 Jan;70(1):63-9. PMID: 23104731

KKE30j 「飲食店では給仕も経営者も間接喫煙による健康被害を受けている」

Liu R等、Tob Control. 2013 Feb 13. (Epub ahead) PMID: 23407112